



第11回 医療連携会議を開催しました

地域医療連携センター センター長 さいとう ようじ 齊藤 洋司

当センターでは、患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目的として、平成19年から医療連携会議を開催しています。出雲圏域7病院、また、平成27年度からは雲南・大田圏域の公立3病院も加わっていたが、計11病院で医療連携会議を開催しています。

昨年度は平成30年3月8日(木)に開催し、病院長及び連携部門の医療ソーシャルワーカー、看護師等と出雲市役所及び出雲保健所から出席いただき、活発な意見交換がなされました。

当院からは、昨年度からの懸案事項であったウェブ予約、紹介状システムの取り組みの概要と眼科、精神科神経科の教授が4月から新たに赴任することについて説明しました。各病院からは地域医療連携の現状と取り組みについてご報告いただき、また、出雲市役所からは在宅医療、介護連携の取組状況についてご説明いただきました。

今年度は、会議開催にあたり事前に各病院(一部を除く)を訪問し、情報共有と意見聴取をおこなったため、限られた時間ではありましたが効率的な議事運営となりました。

当院では、本会議でいただきましたご意見・ご要望に応えるべく、今後、各病院との連携が更に深まるよう努めてまいりたいと思います。

今後とも、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

問合せ先 地域医療連携センターTEL:0853-20-2193

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

5月15日～6月14日

対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名・講師名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
5/24(木) 18:00～19:00	CoHREセミナー「運動による高血圧予防の機序～脳への効果に着目して～」 講師:順天堂大学 スポーツ健康科学部 教授 和氣 秀文 先生	島根大学医学部 図書館3階 視聴覚室	医療 本学	島根大学地域包括ケア 教育研究センター
5/29(火) 9:00～17:00	第4回島根重症外傷カンファレンス 座長:高度外傷センター長 Acute Care Surgery 講座 渡部 広明 先生 プレゼンター1:高度外傷センター 助教 木谷 昭彦 先生 プレゼンター2:雲南消防署 救急救命士 中林 直仁 先生	島根大学医学部 附属病院ゼブラ棟2階 カンファレンスルームだんだん	医療 本学 消防関係者	島根大学医学部附属病 院高度外傷センター
6/2(土) 9:00～17:00	平成30年度 島根県がん診療連携拠点病院がん看護研修(緩和ケア) 「がん看護におけるコミュニケーションスキルを磨く ～患者の感情表出を促すツールNURSEをもちいて～」 講師:国立研究開発法人がん研究センター東病院 副看護部長 関本 翌子 先生	島根大学医学部看護学 科棟1階 N12講義室	医療	島根大学医学部 附属病院

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

・教授就任のご挨拶

精神医学講座 教授 稲垣 正俊
眼科学講座 教授 谷戸 正樹

・第11回 医療連携会議を開催しました

・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報



精神医学講座 教授就任のご挨拶



精神医学講座
教授 稲垣 まさとし 正俊

5月1日付で精神医学講座の教授に就任いたしました。よろしくお願いいたします。

大学医学部は島根県最後の砦としての高度先進的な医療の提供だけでなく、医療をより安全で安心なものにするための研究開発、そして、優秀な医療者の育成という役割を担っていると考えます。これらは互いに密接に関係して、同時にすすめていく必要がありますが、その中でも、優秀な医療者の育成という役割は非常に重要と考えています。

さて、社会の変化に伴い、全国的にも、精神科を受診する患者の数が急増しており、精神科に求められる役割も変化してきています。うつ病、統合失調症、認知症といった従来の精神科医療だけでなく、医療の変化に伴い、がんを始めとした身体疾患による様々な苦痛への対処も求められています。

島根県の精神科医療に貢献してこられた皆様と協力して、そして、精神科だけではなく地域で活動されている皆様と協力して、これまでに私が、国立がんセンターの精神腫瘍部(がん患者の精神・心理的苦痛の緩和を目指す)、国立精神神経センターの自殺予防総合対策センターなどで経験した体験を少しでも還元し、専門的かつ包括的な精神科医療を提供できるよう邁進していく所存です。

医療・社会の変化に対応できる優秀な精神科医師を育成し、島根県での安心で安全な医療が提供できるようにと努めてまいります。皆様のご支援・ご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



眼科学講座 教授就任のご挨拶



眼科学講座
教授 谷戸 たにと まさき 正樹

2018年4月から、眼科学講座教授・眼科診療科長として着任いたしました。1996年に島根医科大学を卒業しました後は、島根医科大学・京都大学・オクラホマ大学・島根大学等で眼科学について研鑽を積んで参りました。緑内障の診断・治療を主たる専門としておりますが、前任地の松江赤十字病院では、眼科部部长として白内障・網膜硝子体疾患(糖尿病網膜症や網膜剥離等)の治療や角膜移植などにも幅広く対応して参りました。島根大学の眼科学講座は、瀬戸川朝一先々代教授・大平明弘先代教授の時代から、網膜硝子体疾患に関する診療を得意としてきましたので、その伝統を引き継ぎながら、新たに緑内障分野を診療の柱に加えることで、これまでよりもさらに幅広く・深い眼科医療の提供を目指して参りたいと思います。近年の眼疾患に関する診断・治療の進歩はめざましいものがありますが、その分、診療を行う医師につきましても専門領域の細分化が進んでおります。当院眼科では、眼科の中のサブスペシャリティーそれぞれについて専門医師が診療に当っており、また、山陰で最高レベルの診療機器も導入されております。講座のメンバー一丸となって、国内でもトップクラスの眼科医療提供できる体制を整えて参りたいと考えておりますので、地域の先生方にはどうかこれまで同様、当院眼科診療へのご理解とご支援を頂ければ幸いです。



島大病院ニュース 2018年5月

ご報告



島大病院ニュース 2018年5月

ご報告

新人研修医の紹介

～私たちは研修修了と専門医取得を確約します～

おにがた かずみち
卒後臨床研修センター センター長 鬼形 和道

(看護部採用者) 新人看護職員66名が入職しました

今年の桜は開花が早く3月末には満開となりましたが、天候にも恵まれ満開の状況で、66名の新人看護職員(看護師58名、助産師8名)を迎えて、新年度がスタートしました。

4月2日からの入職時集合研修は、病院の概要、看護部の概要、チーム医療における他部門紹介や、ビジネスマナー研修、医療安全、感染対策について、救急蘇生法や採血、点滴管理の実技演習などの内容で実施しました。

今年度は、看護師経験のある講師を迎えビジネスマナー研修を行いました。社会人として医療従事者のマナーを理解するための講義、多職種を交えた演習にて、チーム医療を行う上でのコミュニケーション・連携の重要性を学ぶことができました。また、産業医の嘉数先生からの健康管理についての講義もあり、挨拶が人間関係の基本であること、よく働きよく眠ること、強靱な心よりしなやかな心を目指すことなどの大切さを学ぶことができました。新人看護職員は、多職種を交えた演習や消防訓練、実技演習などを行う中で徐々に緊張も和らぎ、5日間にわたり、社会人、組織人としての自覚が芽生え、笑顔で新たな一歩を踏みだしました。

地域包括ケアシステムの進む中、看護職として「ケアする力」「ニーズをとらえる力」「意思決定を支える力」「協働する力」の看護実践力が身につくよう、日々頑張っていますので皆さま、温かい目で応援をお願いいたします。



2018年春、医科研修医16名と歯科研修医1名の先生方が本院で初期臨床研修をスタートしました。3月までは学生、そして4月から社会人です。社会人教育も含めたオリエンテーションを行いましたが、緊張した面持ちが印象的でした。そして、それぞれの研修先で医療を学び始めています。

医科研修では、たすきがけプログラム(県内外の市中病院と大学病院を1年間ずつ)が人気で10名、大学プログラム3名、そして重点プログラム(産婦人科・麻酔科)2名でした。

各科研修は1～2か月と短い周期で環境が変わり、心身ともにストレスがかかると思います。本院では定期的に指導医会(直接に指導に当たる指導医)を開催して、彼らの研修をサポートしています。新専門医制度がスタートしましたが、専門研修を見据えた初期研修を提供する所存です。

先生方には地域研修等でご指導いただきますが、どうか若手医師の育成にお力添えをいただければ幸いです。





島大病院ニュース 2018年5月

ご報告

地域医療連携センターの役割

地域医療連携センター センター長 さいとう ようじ
齊藤 洋司

厚生労働省においては、2025年を目途に、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を推進しています。地域包括ケアシステムの構築のため、病気になり入院しても住み慣れた地域で継続して生活できるよう入院前からの支援の強化や退院時の地域の関係者との連携を推進し、切れ目のない支援をしていくことが求められます。

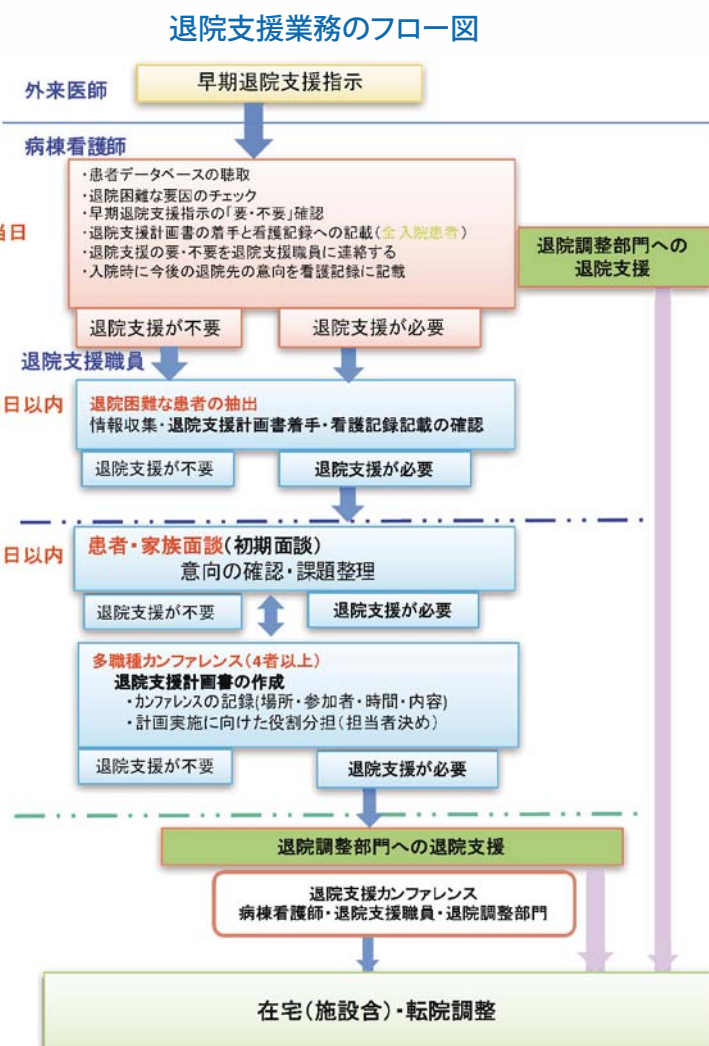
地域医療連携センターは、患者さん及びご家族と地域の関係機関と病院をつなぐ窓口です。地域に根ざした医療サービスの提供、患者さんが地域で継続性のある医療・看護・介護などを受けていただくための地域医療機関・行政機関との連携などを行なっています。

主な役割は、患者さん、地域医療機関等からの紹介による受診の支援と、治療を終えて自宅や他医療機関や施設等で安心できる療養生活の支援、療養にかかる様々な医療福祉相談です。

診療予約や診断書等の受付などは事務担当者、退院調整は退院調整部門の看護師・社会福祉士、病棟専任の退院支援職員（看護師）が中心となり、主治医、病棟看護師、その他多職種とチームで支援を行なっています。医療福祉相談は、看護師・社会福祉士・事務担当者が対応しています。

患者さんやご家族の気がかりを傾聴しながら、安心して住み慣れた地域で生活を送ることができるよう地域の関係者の皆様と連携していきます。

地域医療連携センターをどうぞ利用ください。



問合せ先 地域医療連携センター

診療予約、診断書等：
0853-20-2064

療養支援、医療福祉相談：
0853-20-2193 / 0853-20-2620



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年5月

ご報告



満員御礼！松江市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2018春を開催

やわらかな春の陽射しに、桜も満開となった3月31日、松江テルサで『松江市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2018春』を開催し、120名を上回る参加がありました。

本講座は、本院の講師3名が最新治療を市民の皆様に広く紹介するもので、松江市では4回目の開催となりました。

今回は、内分泌代謝内科、皮膚科、リハビリテーション科の最新治療が紹介されました。

参加者の皆さんは、どの講演にも真剣なまなざしで聞き入っていらっしゃいましたが、講師のユーモアに笑いがたびたび起こり、会場は終始和やかな雰囲気でした。

質疑応答では、骨粗しょう症の実際の治療や、アレルギーをひき起こす食品への対処法、痙攣（けいしゅく）に対する「ボツリヌス療法」についての質問など、講師と参加者の活発なやりとりが行われ、盛況のうちに終演となりました。

アンケートには、「松江には病院情報がないので大変有益でした」、「今後も是非参加させていただきたいです」など、松江市での開催を熱望するコメントを多くいただきました。

演 題

- ①「骨粗しょう症の最新治療：要介護や寝たきりにならないために」
内分泌代謝内科 教 授 杉本 利嗣
- ②「アレルギー疾患の最先端医療：じんましん、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎」
皮膚科 教 授 森田 栄伸
- ③「手足が動かさず！痙攣（けいしゅく）に対する神経ブロック療法」
リハビリテーション科 教 授 馬庭 壯吉



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年5月

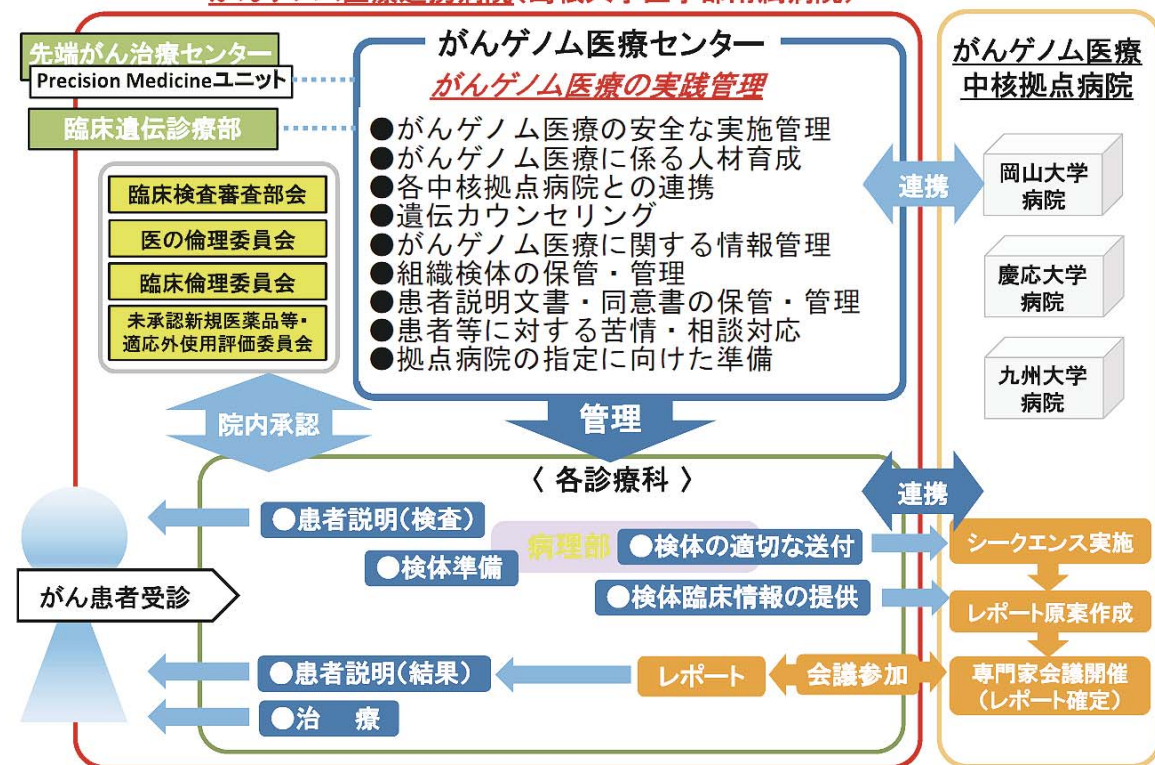
ご報告

がんゲノム医療センターの設置について

院長 いがわ みきお
井川 幹夫

当院は、都道府県がん診療連携拠点病院として、がん医療のハブ機能を果たすとともに、希少がん、小児がん対策、がん患者の就労支援を含む包括的ながん医療を実施しています。厚生労働省はがんゲノム医療を実施する医療機関の拠点化を進めており、がんゲノム医療中核拠点病院として11病院を指定し、当院は中核拠点病院である岡山大学病院、九州大学病院と慶応大学病院のがんゲノム医療連携病院に位置づけられています。がんゲノム医療連携病院の役割は、外部機関への委託を含め、パネル検査を実施できること、パネル検査の医学的解釈ができる人材の存在、または中核病院と相談できる体制、遺伝性腫瘍等の患者に対する専門的な遺伝カウンセリングができること、がんゲノム情報の管理、先進医療・医師主導治験の実施体制の確保等があります。今後、厚生労働省は各県にがんゲノム医療拠点病院の設置を計画しており、当院も島根県民に対して適切ながんゲノム医療を提供できる体制整備を行い、がんゲノム医療の実施を本格的に推進して実績を集積し、拠点病院への昇格を目指します。がんゲノム医療センターは連携病院としての業務を推進するとともに、人材育成と患者の負担軽減を検討する機能も備えています。

がんゲノム医療連携病院(島根大学医学部附属病院)



島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ



TAVI(タビ:経カテーテル大動脈弁留置術)が始まりました

総合ハートセンター センター長 たなべ かずあき
田邊 一明

2018年4月17日に島根県で初となるTAVI(Transcatheter Aortic Valve Implantation)を実施し、無事成功しました。当院では1年以上前から病院横断的なハートチームを結成し、TAVI実施に向けて準備を進めてまいりましたが、ついに島根県でもTAVIが始まりました。

第1例目の症例は80歳代の女性で、TAVIが終わった翌朝には普通に会話しながら朝食を摂取され、「これで胸が苦しくなることを心配せずに安心して歩きまわることが出来る」と話されていました。術後翌日から退院に向けてリハビリに励んでおられる姿を見ますと、TAVIという治療の素晴らしい効果、術後の回復の早さを改めて実感せずにはいられません。順調ならTAVI後1週間で退院可能です。

高齢化先進県である島根には、大動脈弁狭窄症の高齢者が沢山いらっしゃるはずで。TAVIという最先端治療を地元で提供できるようになったということは、苦しくても我慢しておられる方々にとりまして、必ず大きな福音となると確信しております。

もしも高齢者が「動くのがつらい」と訴えられましたら、まず聴診してみてください。そして収縮期雑音が聞こえたら「せつゐ」原因は大動脈弁狭窄症かもしれません。スクリーニングはそれだけで十分ですので、ぜひ大学病院へご紹介いただきますようお願い致します。

ホットライン TEL070-5672-8109

問合せ先 循環器内科(医局) TEL:0853-20-2206



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL:0853-20-2068 FAX:0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年5月

ご報告



ロボット支援手術推進センターの設置について

院長 いがわ みきお
井川 幹夫

2018年度診療報酬改定において、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を利用したロボット支援下内視鏡手術が表に記載する12件の手術に一挙に適用拡大されたことを受けて、当院で適正かつ安全にロボット支援内視鏡手術実施体制の整備を行うためロボット支援手術推進センターを設置しました。

当院では胃がん、膀胱がんについては自費診療扱いで先進医療の承認を目指して症例の集積を図ってきましたが、子宮頸がんに対するロボット支援腹腔鏡下広汎子宮全摘術が先進医療として認定され、前立腺がん、腎臓がんについては保険適用手術として多くの患者に実施しています。がん種・臓器によってロボット支援下内視鏡手術の実施状況は大きく異なり、本院として各種がんに対するロボット支援下内視鏡手術を安全に実施し、診療科横断的にマネジメントできる体制の構築が必須と考えられます。

今回、保険適用となったロボット支援下内視鏡手術について、既存手術と同等程度の有効性・安全性を有すると考えられるものの、優越性を示すまでに至っていない手術については、その診療報酬上の評価は、既存技術と同程度とするとの厚生労働省医療技術評価分科会の意見を反映した手術料の設定となっています。また医療技術評価分科会では、ロボット支援下内視鏡手術を保険適用する際には、その安全性を担保し、データを蓄積するための施設基準を設けるべきとの意見があり、医療機関が保険適用手術としてこれらの手術を行うには、指定された施設基準をクリアすることが求められています。診療報酬上ロボット支援部分が評価されてはいませんが、当院は県内唯一の特定機能病院としてロボット支援下内視鏡手術の適応拡大を進めます。

1. 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術
2. 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術
3. 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術
(肺葉切除または1肺葉をこえるもの)
4. 胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術
5. 胸腔鏡下弁形成術
6. 腹腔鏡下胃切除術
7. 腹腔鏡下噴門側胃切除術
8. 腹腔鏡下胃全摘術
9. 腹腔鏡下直腸切除・切断術
10. 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
11. 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術
(子宮体がんに限る)
12. 腹腔鏡下腔式子宮全摘術



島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ

ASTの活動を開始します！

感染制御部 じょう ゆみ
城 有美

AST (Antimicrobial Stewardship Team) は、聞きなれない言葉かと思いますが、「抗菌薬適正使用支援チーム」のことです。抗菌薬を使用すると、必ず耐性菌が出現します。一方で、抗菌薬使用量を減らすと、耐性菌出現が減ります。

感染症は、あらゆる診療科で発生するので、病院全体の横断的な活動が欠かせません。適正に抗菌薬を使用するために、医師・薬剤師・検査技師・看護師の多職種で構成されるASTが中心となり、「適切な薬剤」を「必要な場合に限り」、「適切な量と期間」使用することを推進していきます。例えば、血液培養や無菌検体から病原体が検出された場合や、耐性菌が検出された場合、加えて抗菌薬が長期に処方されている場合には、ASTの順番になります。

病院の院内感染対策、AST活動への皆様の更なる御協力をお願い申し上げます。



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL : 0853-20-2068 FAX : 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ



病院にファミリーマートがオープンしました

当院の売店は、平成30年4月から新たにファミリーマートが売店運営することとなりました。リニューアル開店に向けた内装改修工事を完了し、5月1日にオープンしました。

病院再開発より長年愛され続けたローソンの患者さんへの思いやりサービス精神は継続しつつ、病院売店として更なるサービス提供をいたします。

医療関係の商品も取り扱う【heartful FamilyMart】として営業いたしますので、お産用品・入院用品・介護用品など一般的な医療用の商品をはじめより管理医療用品など、患者さんが必要とされている商品をできるだけ取り扱い致しますので、店舗にない商品が御座いましたらお気軽にお声がけください。

ファミリーマートサービスルームでは、医療用ウィッグや電動車いすなど、直接お試し頂けるスペースを予定しております。プライベートスペースとしておりますので、お気軽にお越しください。また、たくさんの患者さんから要望がありましたゆうちょ銀行のカード利用についても、ファミリーマート店舗内のキャッシュコーナーにて一部時間帯で、手数料無料にてご利用頂くことができますので、カード利用のみでもお気軽にお立ち寄りください。

サービスルーム



アデランス ＜ヘアサロン＞

店内に専用試着室を設置。
他のお客様や通路からの視線を気にせずお試し頂けるよう配慮しています。

『ゆうちょ銀行』 ATMの導入

ゆうちょ銀行のキャッシュカードで、一部時間帯手数料が無料になるサービスがスタート致しました。

イーネットATMなら一部時間帯で
ご利用手数料無料!!

平日・土曜の 平日 8:45～18:00
一部時間帯 土曜 9:00～14:00

※上記時間帯以外（休日を含みます）は、1回につき210円（商品）の手数料がかかります。



島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ

医療倫理教育APRIN eラーニングプログラム (CITI Japan) について

安全管理担当 副病院長 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

本学では、医学部医の倫理委員会に申請する研究責任者に対して、平成26年4月からe-learning方式による医療倫理教育プログラム(CITI Japan)の受講を義務付けました。この間、人を対象とする臨床研究に関しては、国によるガバナンスが強化され、その一環として4月から臨床研究法が施行されました。これに対応するため、本学では認定臨床研究審査委員会への設置に向け、鋭意努力しています。

一方、CITI Japanは、これまで信州大学を中心に文部科学省GPとして提供されてきましたが、平成28年一般財団法人公正研究推進協会(Association for the Promotion of Research Integrity: APRIN)が発足し、これにより提供されることになりました。その際、システムが更新され、コースも自由に選択可能となっています。下表に示しますように、本学では研究者や倫理審査委員等それぞれの役割に応じてコースを決定致しましたのでお知らせします。詳しくは、臨床研究センターまでお問い合わせください。

領域	単元	現在	2018年からの本学決定コース		
		本学 2017年 コース	研究責任者 ・分担者 コース	研究協力者 コース	倫理審査委員 コース
責任ある研究行為	R C R 共通単元	責任ある研究行為ダイジェスト*			
		公的研究費の取り扱い*	必須	必須	必須
		責任ある研究行為について*	必須	必須	必須
		研究における不正行為*	必須	必須	必須
		データの扱い*	必須	必須	必須
		共同研究のルール*	必須	必須	必須
		利益相反*	必須	必須	必須
		オーサーシップ*	必須	必須	必須
		盗用*	必須	必須	必須
		社会への情報発信*	必須	必須	必須
人を対象とした研究…基盤編		ピア・レビュー*	必須	必須	必須
		メンタリング*	必須	必須	必須
		生命倫理の歴史と原則、そしてルール作りへ*	必須	必須	必須
		研究倫理審査委員会による審査*	必須	必須	必須
		研究における個人に関わる情報の取り扱い*	必須	必須	必須
		人を対象としたゲノム・遺伝子解析研究	必須	必須	必須
		研究で生じる集団の被害	必須	必須	必須
		研究におけるインフォームド・コンセント*	必須	必須	必須
		特別な配慮を要する研究対象者*	必須	必須	必須
		カルテ等の診療記録を用いた研究	必須	必須	必須
		生命医科学研究者のための社会科学・行動科学	必須	必須	必須
		国際研究	必須	必須	オプション
		多能性幹細胞研究の倫理 I・II	必須	オプション	オプション
		研究倫理審査委員会の委員に就任する際に知っておくべきこと	必須	オプション	オプション
		人を対象とした研究ダイジェスト			

*＝英語版が提供されている単元

人を対象とした研究：基盤編の英語版の無いものについては、30年4月以降提供予定



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ



島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催

平成30年4月20日(金)島根大学医学部附属病院経営懇談会を開催しました。この会議は、当院の管理運営等に対して外部有識者からの意見をを得ることを目的として毎年1回開催しており、今年で11回目を数えます。

本会議には、外部有識者としてお招きした、星総合病院 理事長 星 北斗氏、兵庫医科大学 副理事長 太城 力良氏、広島県病院事業局 顧問 平川 勝洋氏の3名と井川 幹夫病院長及び副病院長をはじめとする本院関係者10名が出席しました。当日は、ゼブラ棟の敷地内院外薬局及びカンファレンスルーム、高度外傷センター棟のハイブリッドER室及び初療室等の視察を行った後、懇談会を開催し、平成29年度開催の懇談会における提言に対する取り組みのほか、平成29年度の附属病院経営改善、診療体制整備、医療人育成と医師確保および患者サービス等の取り組みについて、幅広く活発な意見交換が行われ、多くの提言を頂戴するなど、大変有意義なものとなりました。

今回頂いた意見等も参考にし、地域住民や医療関係者の方々に、より一層信頼される病院となるよう努めてまいります。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ

立体駐車場の 「車イス専用駐車場」「思いやり駐車場」を増設しました。

会計課施設管理室 室長 よねはら まさたか
米原 昌隆

2018年1月号の病院ニュースでお知らせしましたとおり、立体駐車場の「車イス専用駐車場」と「思いやり駐車場」を増設整備し、4月から運用を開始しています。

この駐車場は患者さんからの「思いやり駐車場」や「車イス専用駐車場」の駐車スペース不足に対するご意見にお応えし整備したもので、「車イス専用駐車場」は11台から21台へ10台増設し、「思いやり駐車場」は9台から12台へ3台増設しました。

これまでどおり立体駐車場の2階に整備しておりますので、雨天時にも雨に濡れずに移動でき、スペース不足により駐車に苦慮されていた車イス使用者の方や、長い距離の歩行が困難な方にも安心して来院頂けるようになりました。

当院では、来院される方が少しでも快適に過ごして頂けるよう、今後とも患者さんのご意見を参考にさせて頂き、整備を行います。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2018年5月

お知らせ



Cafe ラパンの紹介

こんにちは、A B病棟 2階にある「カフェ ラパン」です。
この度、店名を「お食事処 ラパン」から「カフェ ラパン」へと変更し、営業時間もより皆様にご利用していただけるよう17時までの営業としました。

11時から14時半までを「ランチタイム」とし、日替ランチセットを始めお得な各種セットメニューから、ラーメンやうどん、カレーライス、丼物といったお求めやすい昼食メニューなどをご用意しております。また、14時半から17時まででは「カフェタイム」とし、軽食としてご利用できるメニューからデザートプレート、ケーキセットといったちょっと一息できるメニューをご用意しております。なかでも、カフェタイム限定メニューの「フレンチトースト」は、オーダーを頂いてからスタッフが焼きますので、“ふわふわあつあつ”フレンチトーストがお召し上がれます。

皆様のご来店をスタッフ一同心よりお待ちしております。



お知らせ
島大病院ニュース

平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2018年5月

ご報告

医学生が春季地域医療実習を行いました

地域医療支援学講座 准教授 さの ちあき
佐野 千晶

医学生が大学の春休み期間を利用して、3月6～8日に「春季地域医療実習」を行いました。今回は、島根大学と鳥取大学の医学生29名が参加しました。この実習は、松江、出雲、雲南、奥出雲、県央、浜田、益田、隠岐島後、隠岐島前の各圏域・地域において、病院、診療所、介護施設などでの3日間の体験参加型実習プログラムとなっています。実習内容は、地域の医療全体が見渡せるように各圏域の保健所に企画していただいています。参加者から、参加当初は緊張していたが、振り返るととても楽しかったといった声があがっています。低学年の早期医学体験（early exposure）としても、積極的に活用していただきたいと思っています。

実習は振り返り（feedback）が非常に大切です。実習を行った各圏域報告会の後、3月9日に島根大学の国際交流ラウンジで全体報告会を行いました。この報告会には、実習先の5名の担当者の方も参加いただきました。学生は実習で最も印象に残ったことを発表し、次に地域での「課題」を抽出し、その解決策を活発に話し合いました。和気あいあいとした雰囲気の中、真剣な議論が深まりました。「医療経営について更に勉強しようと思った。」「今後、自分達が医師としての力をつけるには、どうしたらいいのか。」「医師の仕事にイメージがわいた。」「医師偏在の現状について知った。」などの意見がありました。今後も多くの医学生が地域医療実習に参加し、「島根」を楽しんで好きになってくれることを期待しています。

本実習は、保健所をはじめ多くの施設や皆様に多大なご協力を頂いて成り立っております。心より御礼申し上げます。



ご報告
島大病院ニュース

平成30年5月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

